

薬物乱用に対応する者の役割と連携

下総精神医療センター

平井慎二

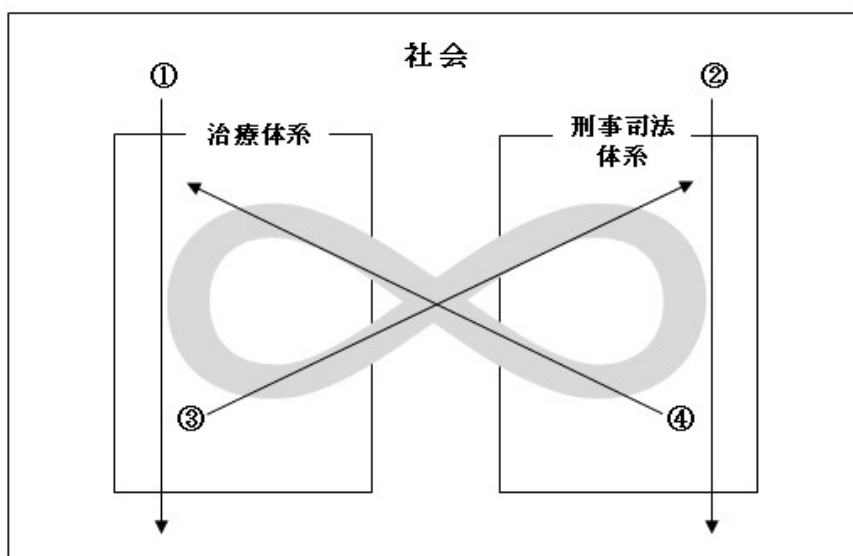
一部の薬物がもつ薬理作用は、それが作用する前に生じた神経活動間の結合を強化するので、その薬物を摂取する行動を無意識的に反射で再現する作用を強くもち、薬物摂取を過度に反復する疾病状態を招く。その疾病状態およびそれによる損失の予防のために、日本政府はその性質をもつ薬物の使用等を規制しており、その態勢は正当である。従って、規制薬物の乱用は、治療および刑罰の対象になる。

それらの働きかけを担う2つの領域は、目的を規制薬物乱用者数の減少として、次の態勢をもつことにより連携できる。

治療体系は、対象者による既遂の規制薬物乱用を取締機関に通報せず、援助の提供を優先し（図中①の矢印）、また、既遂の規制薬物乱用の証拠がなくなった時点で対象者の同意があれば、取締職員に観察と指導を依頼する（③）。

刑事司法体系は、将来の規制薬物乱用を防ぐために検挙を背景として治療開始を含めた薬物乱用を回避する指導を行い、既遂の規制薬物乱用は厳正に取り締まり、責任能力に応じた刑罰を与え（②）、並びに疾病性に応じた援助を受けることを強制する（④）。

各領域の態勢を示す4本の線



上記の各態勢は、援助と法の抑止力への接近を、治療体系は受容的に、刑事司法体系は強制的に保つ。

その連携は、治療体系と刑事司法体系がそれぞれ2つ、計4つの作用をもち、それらを滑らかに繋いで生じる形状から、 ∞ （むげんだい）連携と呼ぶ。

∞ 連携を構成する各領域の態勢は、治療体系のものは現行法内で可能である。

一方、刑事司法体系は現行の裁判での言い渡しにおいては犯罪の部分には刑罰を強制するが、疾病性を認めた上でそれに治療等を強制することはない。

その不足に対して、ヒトの行動メカニズムに従い次のように補足できる。

ヒトの行動は無意識的に反射で過去の生理的成功行動を再現する第一信号系と意識的に思考で未来に社会的成功行動を創造しようとする第二信号系の2つの中枢により成立する。

規制薬物摂取行動を司る中枢の内、第一信号系には治療と訓練が、第二信号系には教育と刑罰が効果を発揮するので、次を整えるべきである。

薬物乱用に疾病性と犯罪性があることを一般的な知識に普及させることが必須である。治療体系は、充足した援助施設を備えて、規制薬物乱用者を取締機関に通報せず、疾病性への対応を優先する。一方、刑事司法体系は規制薬物乱用に関して第一信号系が第二信号系より強く作動し、薬物乱用をやめられない者に対して、検挙の前後を問わず、必要な援助等を受けることを求め、それを怠った第二信号系の選択には刑罰を科す。逆に、規制薬物乱用に関して第一信号系の作動より第二信号系が強い状態でのその行為に対しては、検挙した者のその行為を選択して実行した第二信号系には刑罰を科し、第一信号系に関しては治療や訓練を受けるよう勧奨する。

また、治療体系内での連携においては、過敏になり薬物摂取行動を再現する反射連鎖を抑制する治療と社会生活に不足した多くの反射連鎖を成長させる生活訓練を対象者に応じて提供する意識が求められる。